

経済施設等対策について

1. 庄内温泉筑豊ハイツについて

◇平成28年11月4日（経済建設委員会）以降の動きについて

○平成28年12月8日勝田議員が一般質問にて経済建設委員会での検討を提案

「筑豊緑地全体で考える、筑豊ハイツの再整備や飲食等の提供について」

⇒福岡県公園街路課と協力・実現の可能性等について、継続して協議中。

2. 飯塚市地方卸売市場について

◇平成28年11月4日（経済建設委員会）以降の動きについて

飯塚市地方卸売市場等施設整備検討委員会

○平成28年11月21日（月） 第4回飯塚市地方卸売市場等施設整備検討委員会

(1) 講演

演題：「卸売市場を巡る動向」 講師：福田 晋 九州大学教授

受講者数：78名

■講演要旨

①基本的な考え方について（農水省：第10次卸売市場整備基本方針）

- i) 卸売市場における経営戦略の確立
- ii) 立地・機能に応じた市場間における役割分担と連携強化
- iii) 産地との連携強化と消費者、実需者等の多様化するニーズへの的確な対応
- iv) 卸売市場の活性化に向けた国産農林水産物の流通・販売に関する新たな取組の推進
- v) 公正かつ効率的な売買取引の確保
- vi) 卸売業者及び中卸業者の経営体質の強化
- vii) 卸売市場に対する社会的要請への適切な対応

②方向性

- i) 公平・公正な卸売市場の役割の再構築
- ii) コールドチェーンを始めとした物流機能強化
- iii) ニーズにあったマーケティング機能の構築

③その他講師の所見

- i) 小規模小売店の衰退が加速して買い物難民が増加することで、その対策に自治体が大型小売店を誘致し、さらに小規模小売店が衰退するという流れは、今後どの市町村でも考えられる。本来、市場づくりは市町村の基本計画に位置づけられるべきであろうと思っており、市場のあり方とまちづくりをセットにして考えていくべきである。
- ii) JAは全国各地様々な団体があり、団体によって運営の差が激しい。JAと地元生産者という結びつきは以前からあるが、JAが活発でないような所であれば卸売市場がJAの機能を担っていくようなまちづくりを目指すべきであるし、十分出来ると思う。
- iii) 今後の卸売市場の運営手法を考えた場合、福岡市の卸売市場のように、海外輸出を目指している卸売市場もあるが、例えば、直接卸売市場が海外輸出を行わな

くても、生産者等のニーズを捕らえてマッチングをしたり、提案するようなコーディネートをすることも大事なことと思う。細かなニーズを常に把握し、結びつけることは非常に大事である。

(2) 地方卸売市場の今後について、市場関係者の意見

■代表的な意見・ポイント

ーコールドチェーン化や衛生管理をしっかりやり、安心安全で高品質な生鮮品の流通に取り組みたい。

ー青果、水産、花の3つが一緒に移転するメリットを活かしていきたい。

ー魅力ある場外市場に取り組んでいきたい。

(3) 全体討議

■代表的な意見・ポイント

ー青果、水産、花きと一緒にある市場は全国的にも珍しく、環境としての強みだと思ふ。これを活かすような市場づくりがあつてしかるべきである。

ー場外市場は立地がかなり重要である。市場の位置は多数が集まって活気があることが望ましく、多くの消費者が活気を感じ取れ、購買行動をとってもらえる事が大事。

ー青果、水産、花きと一緒にある強みとは、市場を経由した新鮮な品がそこに多岐に品揃えできる点だと思ふ。

ーどのような場外市場にするかは、消費者ニーズをきちんと捕らえ、ターゲットを絞って戦略を練ることが大切だと思ふ。

○平成28年12月19日（月） 第5回飯塚市地方卸売市場等施設整備検討委員会
飯塚市卸売市場等施設整備基本構想（答申書）【素案】について

■骨子

第1章 基本構想の策定にあたって

- ・基本構想の趣旨
- ・飯塚市卸売市場を取り巻く環境と課題

第2章 市場経営戦略

- ・飯塚市地方卸売市場の今後の展望
- ・飯塚市地方卸売市場の今後の方向性

第3章 新市場整備方針

- ・施設の現状及び課題と社会要請への対応
- ・整備基本方針の全体像
- ・施設整備内容
- ・施設整備パターン
- ・移転候補地
- ・施設の整備及び運営手法

第4章 場外市場整備計画

- ・場外市場機能の意義
- ・場外市場コンセプトと市場性
- ・場外市場の運営方法及び運営パターン

○平成29年1月23日（月） 第6回飯塚市地方卸売市場等施設整備検討委員会
飯塚市卸売市場等施設整備基本構想（答申書案）について協議



産学連携について

平成29年2月1日
飯塚市 経済部 産学振興課

人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつづけたいまち



飯塚市

IIZUKA CITY Official Web Site



概要【歴史】

江戸

長崎街道随一の宿場町
として繁栄

明治

石炭産業「筑豊炭田」
全国一の出炭量、人口急増

昭和

エネルギー革命
炭鉱閉山による疲弊
→企業、大学の誘致

平成

大学発ベンチャー企業
大学、研究施設、
産業支援機関の集積

**「e-ZUKAトライバレー
構想」スタート
(2002)**



【明治・大正の人力採炭】
飯塚市歴史資料館展示

【旧伊藤伝右衛門邸】
筑豊の石炭王と呼ばれた
伊藤伝右衛門と歌人柳
原白連がすごした邸宅



【嘉穂劇場】
石炭産業が栄えた大正時
代に建築された芝居小屋



概要 【研究開発インフラ集積の変遷】

1993～2005年
松下電器産業(株)
九州マルチメディアシス
テム研究所



2001～2005年
スタンフォード大学言
語情報研究センター
飯塚ブランチ



2002.4
I.B.Court



2003.4
e-ZUKAライブレー
センター

2004.4
九工大インキュ
ベーション施設



2007
近畿大学分子工学研
究所 JSR機能材料
リサーチセンター

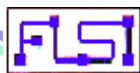


2001～2009
近畿大学分子工学
研究所ヘンケル
先端技術リサーチ
センター



1992
(株)福岡ソフト
ウェアセンター

1992
福岡県立飯塚研究開発
センター((財)飯塚研究
開発機構)



1990
(財)ファジイシステム研究所
(飯塚研究開発センター入居)



1986
九州工業大学
情報工学部



1979
労働福祉事業団
総合せき損センター



最盛期の筑豊炭田



1966
近畿大学九州工学部
(現近畿大学産業理工学部)

強み【人材の集積】

■市内大・短期大学の学生数・教員数

市の人口（約131,000人）の約3.2%を占める約4,200人の学生が集積

大学名	大学生数	研究者数	合計
九州工業大学 情報工学部	2,358	134	2,492
近畿大学 産業理工学部	1,639	57	1,696
近畿大学 九州短期大学	195	21	216
合計	4,192	212	4,404

2014.5.1現在

（参考）都道府県別学生数の人口比ランキング※でみると・・・

1. 京都府(6.17%)、2. 東京都(5.53%)、3. 滋賀県(2.64%)

出所: 文部科学省「平成24年学校基本調査」
※市町村別データはなし

飯塚市(3.2%)は東京に次ぐ高さ！

強み【医療施設の集積】

医療施設数

149

病院 13
一般診療所 136



株式会社麻生
飯塚病院

病床数

3,392床

人口100人あたりベッド数

飯塚市 2.58
福岡県 1.93
全国 1.36



飯塚市立病院

全国比 2倍

医療・福祉 従事者数

9,350名

全従業者に占める割合
飯塚市 15.2%
福岡県 12.1%
全国 10.2%



済生会
飯塚嘉穂病院

全国比 1.5倍

強み【大学発ベンチャー企業の輩出】

■ベンチャー企業の集積

九工大学情報工学部、近大産業理工学部卒業生等による大学発ベンチャー企業を中心に**約50社**が集積。半数以上を**情報通信業**が占めている。特に九州工大学は、**全国10位の大学発ベンチャー設立数**を誇る（情報工学部以外も含む）。

TRIART
triangle architect

Glücks
Infinity of design and system



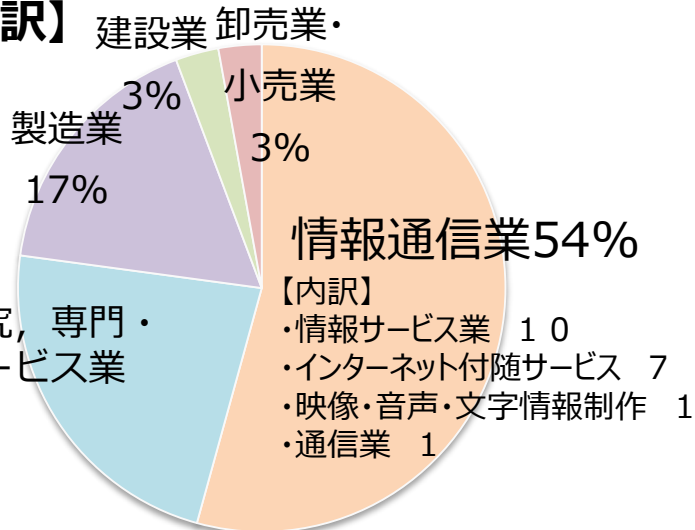
RAMROCK
株式会社 ラムロック



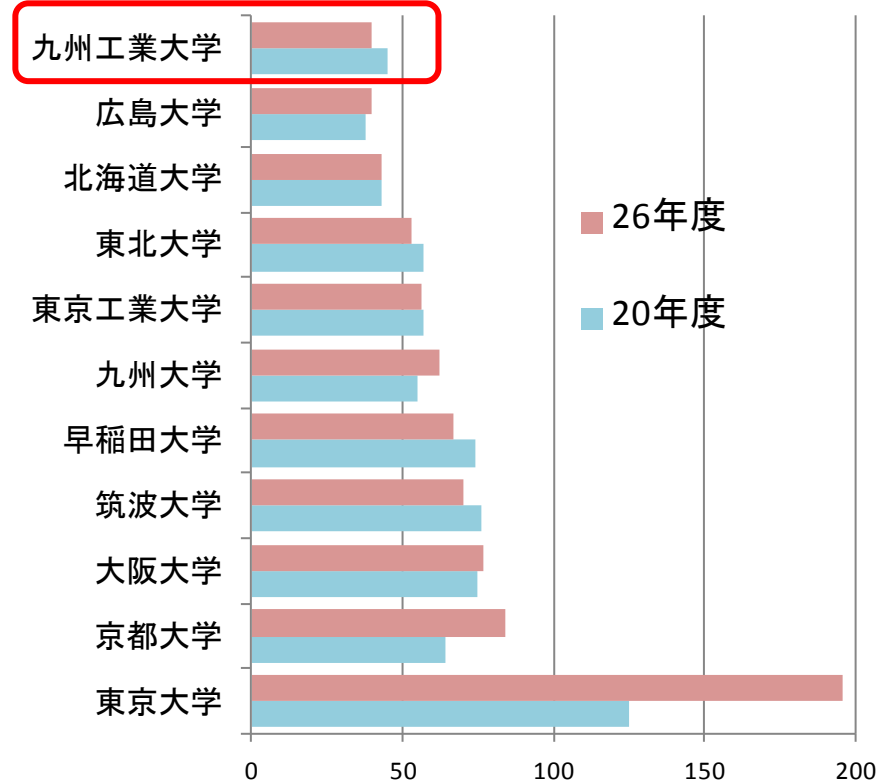
Cueß
computer & utility
engineering

株式会社 なうデータ研究所
from Asian Silicon Valley "e-ZUKA"

【業種内訳】



大学発ベンチャーの関連大学別企業数

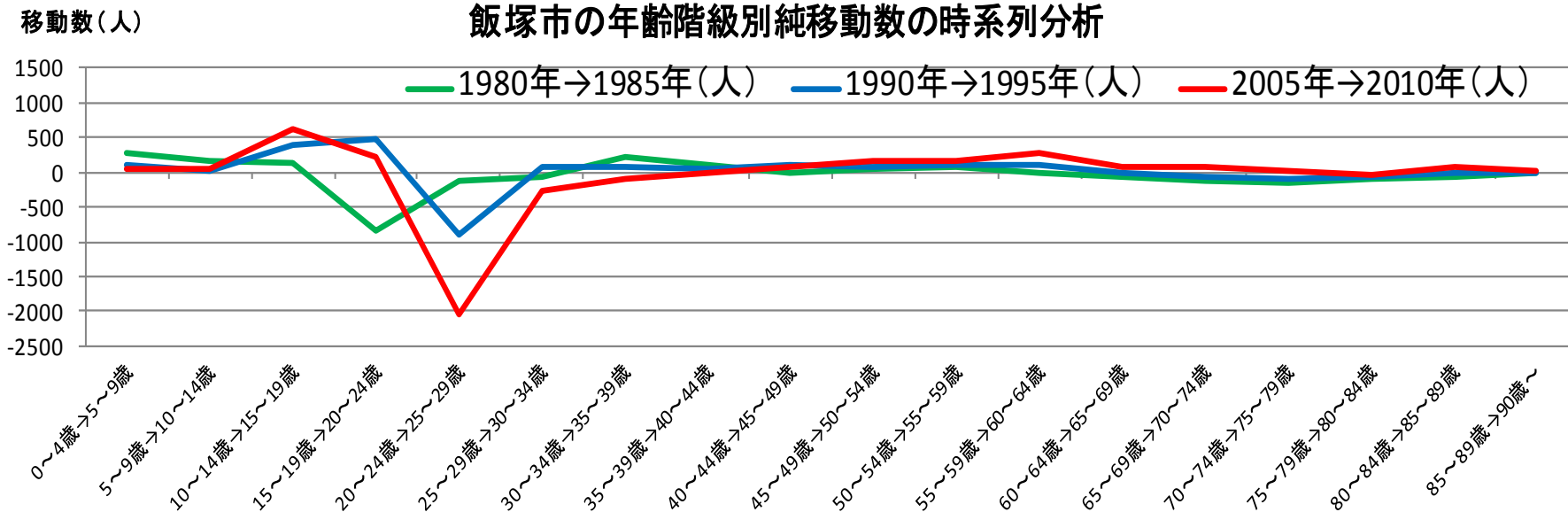


出展) 経済産業省平成26年度産業技術調査事業
「大学発ベンチャーの成長要因を分析するための調査」

弱み【若年人口流失】

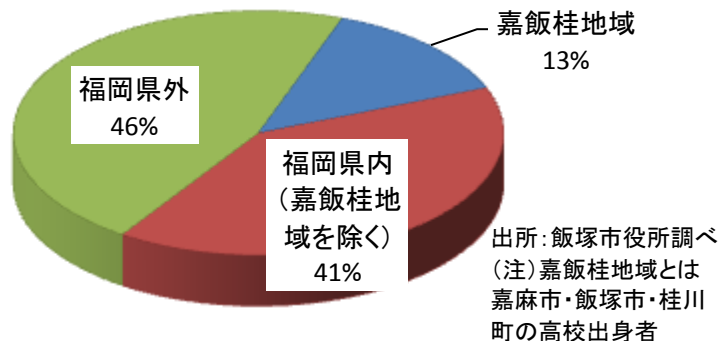
市内大学の入学生の8割以上が地域外から来ている一方、就職先は地域外が9割以上を占める。こうしたことから、2005年→2010年の年齢別順移動数では、20～24歳から25～30歳の人口流出が突出して多くなっている。

飯塚市の年齢階級別純移動数の時系列分析

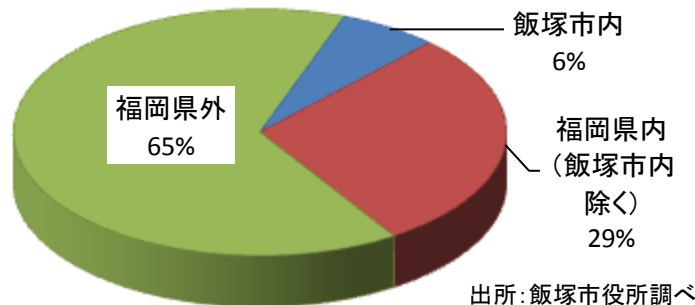


出所: 総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

飯塚市内3大学の新生入生出身地別割合 (平成26年度新生総数933名)



飯塚市内3大学の卒業生就職先地域別割合 (平成26年度学部・院卒業生767名)



e-ZUKAトライバレー構想

- 主な施策
- ・創業支援
 - ・人材育成
 - ・ベンチャー支援
 - ・産学官連携

● 第1ステージ

2003～2007

情報関連産業の集積
ITを活用した地域の活性化

主な施策

- ・国際化への対応
- ・企業の成長に合わせた支援体制の強化
- ・市場創出に繋がる戦略プロジェクトの構築



第2ステージ

2008～2012

大学力を活かした
地域経済の活性化



飯塚市新産業創出ビジョン

2013～2017

人と産業が集まり
成長するまち

産業振興施策

1. 地域企業のイノベーション促進

- (1) 産学官交流の充実、(2) 新産業創出支援、(3) 産学官金連携による支援強化

2. 課題解決型ビジネスの創出

- (1) 地域の課題解決ワークショップの開催支援、(2) 飯塚型創業支援、(3) 技術者交流コミュニティの形成支援

人・モノ・技術・情報・企業の交流・集積

嘉飯桂産業振興協議会、地域企業、ベンチャー企業

飯塚病院、せき損センター

重点分野

医工学連携

地域企業、起業家

地域医療機関

産学官連携

九州経済産業局
福岡県、飯塚市

行政
産業支援機関

大学
研究機関

飯塚商工会議所、(株)福岡ソフトウェアセンター、(公財)飯塚研究開発機構

九州工業大学、近畿大学
近畿大学九州短期大学

地域の起業力・企業力向上

3. 企業のニーズに応じた支援体制の強化

- (1) 販路開拓支援、専門アドバイザー・コンサルタントの支援、(3) 資金調達支援

4. 人材・技術・情報の集積

- (1) インターンシップの推進、(2) 地域における人材定着促進、(3) 学会等の開催支援
(4) 情報発信の強化

新産業創出プロジェクト【医工学連携】

◆ 協定日

平成26年5月23日（金）

◆ 場所

のがみプレジデントホテル（飯塚市）

◆ 協定締結者

- ◆ 飯塚病院 院長 田中 二郎
- ◆ 国立大学法人九州工業大学 学長 松永 守央
- ◆ 飯塚市 市長 齊藤 守史
- ◆ 公益財団法人飯塚研究開発機構 理事長 渡辺 顯好



写真左から田中院長、松永学長、齊藤市長、渡辺理事長

1. 研究交流

医療現場における課題・ニーズと大学のシーズの情報共有、意見交換及びマッチングを今後も継続して実施してまいります。

更に、医療関連産業参入の課題解決を図るため、専門家を招聘したシンポジウムや勉強会を開催いたします。

2. 共同研究

医療現場から出てきたニーズと地域で保有する技術を照合せながら、有望なテーマを選定し、事業化の可能性を検討、実証していきます。

3. 人材育成及び交流

九州工業大学バイオメディカルインフォマティクス研究開発センターと連携し、医療情報工学分野の技術者を育成してまいります。

更に、薬事法、ISO認証等に関する勉強会や医療現場の見学会を充実させ、地域企業が医療関連産業へ参入しやすい環境を整備いたします。

4. 競争的資金の確保

共同研究の製品化・実用化に向けて、国県等の競争的資金獲得を目指していきます。

国県及び各支援機関等と連携を密にしながら公募案件の情報収集及び提供に努めるとともに、申請書作成のサポートも実施していきます。

5. 事業化共同体制形成【追加】

医療現場のニーズ・課題等に基づく製品化・事業化に向けた地域企業の参入促進のための体制作りを実施してまいります。

6. その他必要と認める事項

関係機関による推進組織を立ち上げ、共同研究プロジェクトの進捗管理やシーズ・ニーズのコーディネートなど、医工学連携の円滑な実施を図ってまいります。

医療とものづくり企業マッチング支援【飯塚メディコラボ】

医療の質の向上等を目的に、飯塚市内の中核病院がコンソーシアムを形成し、医療機器メーカーや研究機関が医療現場に入り現場ニーズに即した医療機器開発に取り組む「飯塚メディコラボ」を本年から開始。

こうした取組みは、国内では大学病院の一部で先端医療分野を中心に実施されているが、市中病院が連携して病院の医療現場を医療機器開発フィールドとして提供する取組みは我が国初となる。

 飯塚地域の3病院がフィールドです



- 医療機関 医療の質の向上
- メーカー・研究機関 現場ニーズを反映した開発
- 医療機器開発支援ネットワーク 地域の活性化

	飯塚病院 	飯塚市立病院 	済生会飯塚嘉穂病院 
病床数	1,116床 一般病床 978床 精神病床 138床	250床 一般病床 150床 地域包括ケア病床 50床 回復期リハビリテーション病床 50床	198床 一般病床 108床 地域包括ケア病床 26床 回復期リハビリテーション病床 44床 緩和ケア病床 20床
診療科目 / スタッフ数	41科・部 / 2,443人	15科 / 354人	16科 / 241人

※2016年7月1日現在のデータです。

医療機器・サービスの開発促進【開発補助金】

■新産業創出戦略プロジェクト補助金

医工学連携を加速させるため、昨年度から補助事業として創設。

医療機器関係の勉強会の開催や共同研究プロジェクトの推進などに活用されている。

【活用できる費目】

報償費、旅費、需用費、役務費、委託料(課題検討又は研究開発に関するものに限る。)、使用料及び賃借料。

【採択案件】

再委託先	テーマ名
九州工業大学	胸部X線からの肺がん診断支援装置開発
九州工業大学	自走式カプセル内視鏡開発
フジパックシステム	木型を用いたドラックボックス樹脂ケースの低コスト製造方法の開発
TRIART	スマホ・タブレットによる遠隔医療システムにおける画像認識技術の開発

■研究開発支援事業

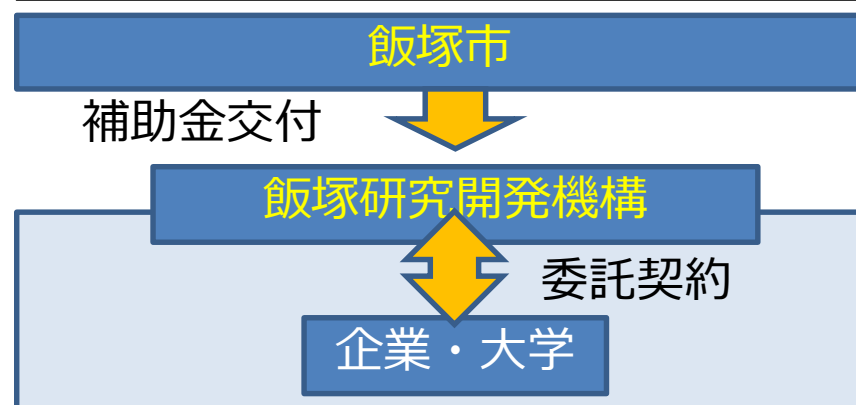
(公益財団法人飯塚研究開発事業)

新規技術の実用化、技術の高度化、新製品の開発等の実用化研究開発を実施する中小企業、または有機的な連携による産学官の共同開発グループに対する支援を実施(委託費)。

○委託金額： ①調査研究：100万円以内 ②実用化研究：300万円以内

○採択件数： ①調査研究：2件程度 ②実用化研究：1件程度

新産業創出戦略プロジェクト補助金 実施フロー図



医療現場ニーズを实用化

飯塚病院は、院内での患者の急変(心肺停止等)に備え、救命用の薬剤や機器を収納した救急カートを各所に設置している。

本カートに収納している薬剤や機器の収納場所が院内で統一されておらず、スタッフが応援で他病棟等へ出向いた際に、緊急時に薬剤を探すのに時間を要する場合がみられた。

この課題の解決のため、院内で統一された薬剤トレイの開発に向け、地域企業と連携して試作を繰り返し、実用化に成功した。

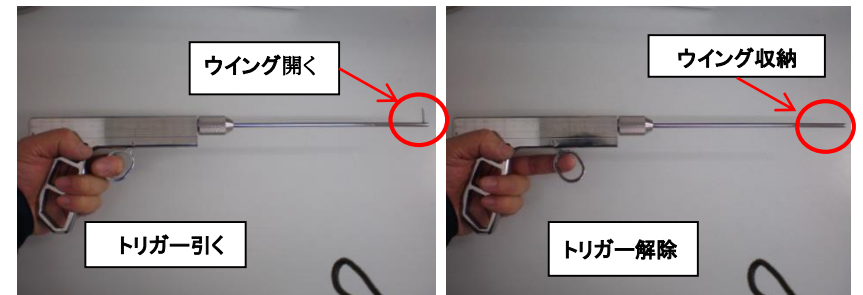


大学発アイデアを实用化

金属加工の九研は、主力の半導体関連の海外移転進展に伴い、受注減や先行き不透明感等がみられる中、九州大学との出会いを通じ、今までほとんど関連がなかった医療機器の開発に着手した。

具体的には、腹腔鏡手術において、安全かつ短期間で縫合できる医療機器のアイデア提供及び試作評価を九州大学から得て、開発に成功した。

当社は、既に医療機器製造業の許可は得ているが、今後は医療機器メーカーとして販売していくことを目指し、ISO基準を取得し製造販売業の許可申請中である。



ITベンチャーが医療分野に参入

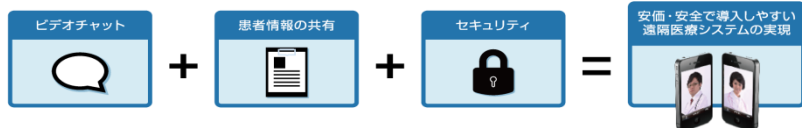
ITベンチャー企業のTRIARTは、保有する画像セキュリティ技術を活用し、九州工業大学や熊本大学病院との共同研究を重ね、熊本阿蘇中央病院(現 阿蘇医療センター)の協力検証のもと、僻地における急患用モバイル医療支援システムを開発。

本システムは、当初脳卒中用として構築したが、はん用的な利用も可能であるため、病院内での救急用の情報伝達システムとしても利用されている。

なお、本システムの基幹技術は、トヨタ自動車九州でも導入されるなど、活用の幅が更に広がることが見込まれる。

iOS端末で実現する遠隔医療補助！

これまで都市部に運ぶ事では対応できなかった疾患を地方にて措置可能にした実績あり

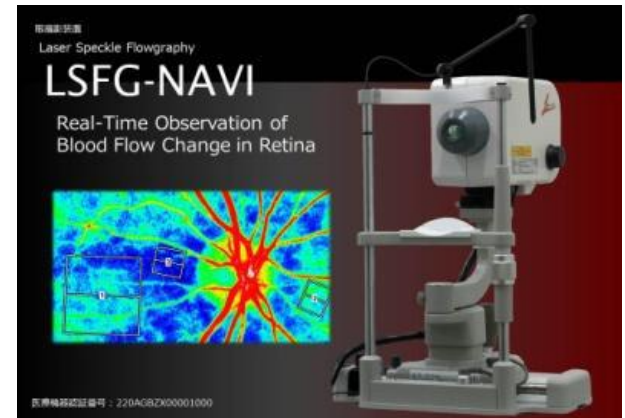


大学研究から医療機器ベンチャー

医療機器製造のソフトウェアは、九州工業大学で研究されてきた血流画像化技術をもとに、新しい医療診断装置を開発し、製品化することを目的に大学発ベンチャー企業として設立。

この血流画像化技術は、生体によるレーザー散乱光(スペックル)の画像解析をベースに構築され、世界に類を見ない新しい血流画像を動画で提供することに成功。

現在、皮膚用と眼科用の血流画像化システムを製品化しており、国内の医療・研究機関で利用されている。



新産業創出プロジェクト【インフラ支援】

■ e-ZUKAトライバレーセンター

これから創業を目指す起業家や創業後間もないベンチャー企業に対して、良好な研究開発環境を低廉な利用料で提供し、研究開発型企業の集積拠点とするため、インキュベーション施設の管理運営を行った。

○対象：

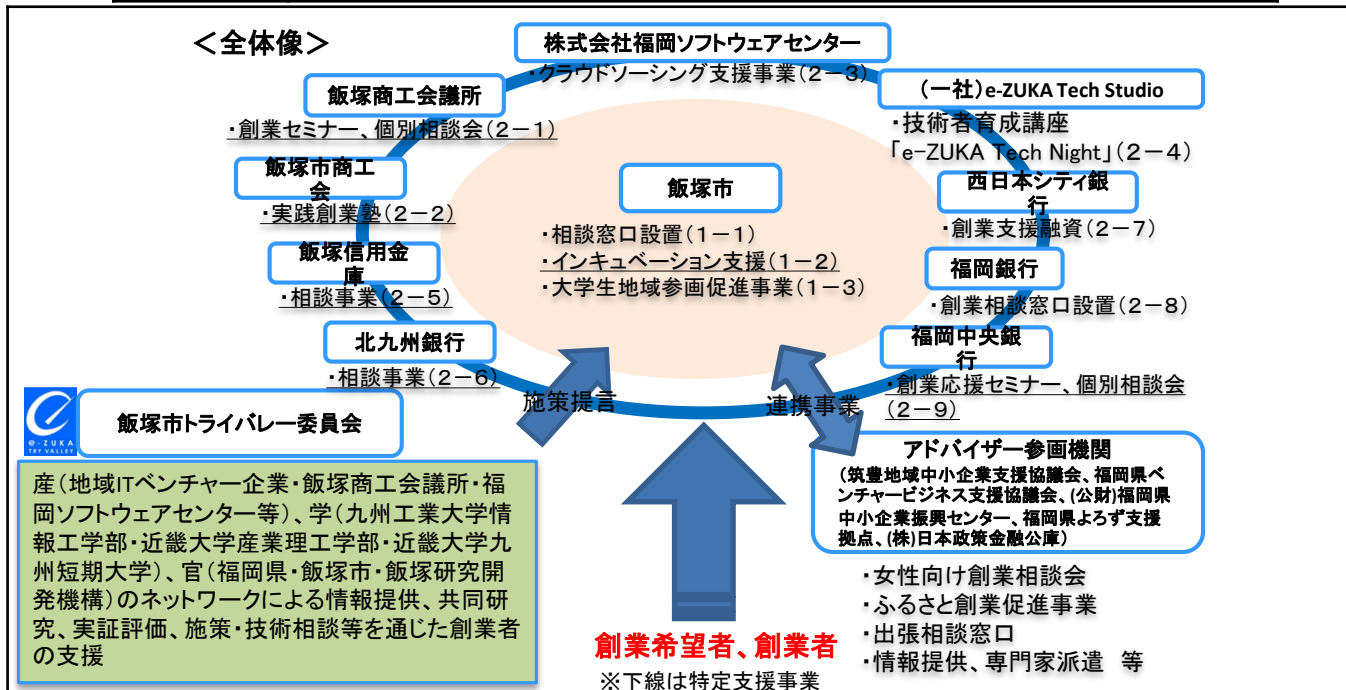
- i) 一定以上の技術力を有し、新たに創業しようとする者又は利用開始時点で創業後5年を経過していない者
- ii) 研究開発型企業で市内の大学と共同研究開発を目指す者
- iii) 研究開発部門等を持つ企業で、新分野進出を目指す者

○利用料：約1000円/m²（大学生は半額）

施設名	室番号	広さ及び区画	1か月の料金
育成支援室	A203・A204 A303・A304	19.92m ²	20,490円
	A202・A302	20.90m ²	21,500円
	A201・A301	21.30m ²	21,910円
研究開発室	B205・B206・ B207 B208・B209・ B210 B211・B305・ B306 B307・B308	49.80m ²	51,220円 (利用期間延長の場合 92,210円)
駐車場		1区画	1,030円



市区町村	飯塚市創業支援事業計画
認定連携 創業支援 事業者	飯塚商工会議所、飯塚市商工会、福岡県商工会連合会、株式会社福岡ソフトウェアセンター、一般社団法人e-ZUKA Tech Studio、飯塚信用金庫、北九州銀行、西日本シティ銀行、福岡銀行、福岡中央銀行
概要	本地域においては、地域資源である大学の知的資産を活用した新産業の創出を体系的に取りまとめた「新産業創出ビジョン」に基づいて大学発ベンチャーの創出等の各種施策を実施してきたが、本計画により、地域の関係機関との連携を強化し、充実した各種創業支援事業を実施します。
年間目標数	創業支援対象者数：230件、創業者数：80件
特徴	<p>飯塚市では、インキュベーション事業による個別案件支援から連携機関への繋ぎのほか、創業人材育成、アドバイザー参画機関と連携したイベント等を行</p> <p>創業前</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 地域資源の活用 2. ターゲット市場発掘 3. ビジネスモデル構築 ・飯塚市、e-ZUKA Tech Studio、福岡ソフトウェアセンター、金融機関等(創業人材育成、創業者の掘り起こし、ビジネスプラン作成支援等) 4. 売れる商品開発 5. 適正価格・販売手法 ・インキュベーションマネージャー、飯塚商工会議所、飯塚市商工会、金融機関等(創業に関する基本事項の学習、個別相談、販路開拓等) <p>創業後</p> <ul style="list-style-type: none"> 6. 資金調達 7. 事業計画 ・金融機関、商工会議所、アドバイザー機関等(融資相談、経営指導員による無料相談) 8. 許認可手続き 行政書士、社労士(無料相談) 9. 創業後のフォロー ・インキュベーションマネージャー(ハンズオン支援)、飯塚市(販路開拓補助金、施策紹介)、金融機関、アドバイザー機関等(マッチング)



新産業創出プロジェクト【資金支援】

【経済産業省】

- ◆ものづくり補助金
- ◆戦略的基盤技術高度化支援事業
- ◆医工連携事業化支援事業

開発
企業

基礎研究

開発・スケールアップ

市場投入

【飯塚市】

- ◆新技術・新製品開発補助金
- ◆新産業創出戦略プロジェクト補助金

【飯塚市】

- ◆飯塚市販路開拓補助金

【飯塚研究開発機構】

- ◆実用化可能性調査研究

【中小企業基盤整備機構】

- ◆専門家継続派遣事業

【飯塚研究開発機構・飯塚市】

飯塚地域では国補助金等の補助金申請書の作成をサポート。

- ①モノづくり企業様向け補助金獲得勉強会 ②産学官連携セミナー ③個別支援

新産業創出プロジェクト【産学官交流促進】

【e-ZUKAトライバレー産学官交流研究会（通称ニーズ会）】

地域の産学官関係者が気軽に参加できる定期的な交流の場を提供し、**参加者間によるネットワーク形成と新規事業の創出**を図る。当会は、2004年以降開催しており、本年で13年目、計**100回を超える**開催実績を有する。【開催実績（平成27・28年度）】

回	開催日	テーマ
109	H27.5.19	学生が飛び込みやすい地域のつくり方
110	H27.10.2	エコミック・ガーデニングによる地域企業支援
111	H27.10.20	“新しい働き方”クラウドソーシング・クラウドファンディング活用セミナー
112	H27.11.24	100年企業 ロボット村で社会と地元へ恩返し
113	H27.12.7	医工学連携フォーラム in e-ZUKA「医工学ものづくり最前線」
114	H28.2.6	近畿大学九州短期大学 総合発表会
115	H28.2.22	製販ドリブンモデル ワークショップ&個別技術相談会 in 福岡
116	H28.3.16	チャレンジプロジェクト2015成果発表会
117	H28.9.25	起業家精神とイノベーションが世界を変える
118	H28.11.28	誰でもできるイノベーション・近大発地域創生(経営者交流セミナー)
119	H28.12.16	成約率が上がる企画書セミナー



創業や第二創業を
お考えの皆様へ

第111回 e-ZUKAトライバレー産学官交流研究会（ニーズ会）

“新しい働き方”
クラウドソーシング・クラウドファンディング活用セミナー
～資金調達・販路開拓の手法を学ぶ～

2015.10.20(火) 入場 無料
(注) 最初の2名は無料ですが、お席の都合により
開催を中止し、講師が変更になります。

新産業創出支援センター 3F 研修室
(e-ZUKAトライバレーセンター)

17:30-19:35 ※交流会～20:30 飯塚市幸袋576-14 TEL0948-26-1022

新産業創出プロジェクト【大学生と地域の交流促進】

【飯塚ズカズカプロジェクト】

市内の大学生に飯塚の魅力的な企業を知ってもらうとともに、企業・地域にズカズカ入り社会人との交流等を通じて、地域の活性化を図る。

【28年度開催内容】

内容	登壇者・タイトル
第1回	飯塚市役所 阿部室長「ズカズカ知って・やってほしいこと」 タカハ機工 大久保社長「飯塚から未来の製造業を！」
第2回	ソレコン審査会、明和電機 土佐社長、漫画家 見ル野氏 「トークセッション～私の仕事」
第3回	面白法人カヤック 柳澤CEO「面白法人の話 ～面白法人はどこが面白いのか～」
第4回	TRIART今津社長「小さな力で大きく動くための経営戦略」 トマツバンチャーサポート 鍋島公認会計士「これからの働き方」
第5回	日本貿易振興機構 眞銅理事「日本と世界の貿易投資を双方向で促進するジェトロ ～チーム・絆・KIZUNAの取組み～」
第6回	工場見学、本田機工 龍造寺社長「世界にポンプを輸出する本田機工へ行こう！」



新産業創出プロジェクト【地域定着促進】

【地域企業魅力発見事業】

飯塚市内の3大学の学生と地域企業の出会い・交流の場を創出することによって、学生と企業がお互いの良さを再認識し、就職・採用活動につなげることを目的に、就職情報誌の発行から、合同会社説明会の開催、その後のフォローアップまで行うことで、地域の雇用創出を図る。

【H27年度とH28年度の実施状況】

- 就職情報誌の発行【発行数4000部→8000部】
地域企業の魅力や合同会社説明会の開催案内等を掲載した冊子を4000部発行し、市内外の大学等へ配布
- 合同会社説明会（開催数1回→3回）
就職活動支援セミナー、個別会社説明会など
- フォローアップ事業【平成27年度～】
説明会参加者・企業及び未参加者・企業も含め、就職及び採用支援を継続実施。

【H27年度合同会社説明会の開催実績】

- 参加者：企業等 36社（前年度比+6社）
学生等136人（前年度比+30人）
- 面談数：424件（前年度比+99件）



つながる地域IoTリーダー育成事業

背景

嘉飯桂地域（飯塚市、嘉麻市、桂川町。以下同じ）において、地域の中学・高校に在籍する生徒が約1万人（H28年度学校基本調査）いるが、同地域の通勤通学流動状況では約5,800人の流出超過（H22年国勢調査）となっており、就職や進学する際にその多くが地域外へ流出している。

また、同地域には3大学（九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学）が立地し、在籍する大学生（約4,200人）の8割以上が地域外から流入（本市調査）しているが、卒業・就職とともに9割以上が地域外へ流出している。

その要因として、中高生については、地方において最先端の教育を受ける機会が少なく、都会との教育格差が生じていること等が考えられる。大学生については、地域企業等と接する機会が少なく地域の魅力を知らずに卒業していくほか、地元志向があっても最先端IoT企業等への就職を優先し、地域外へ流出するケースもみられる。一方、首都圏や大都市に一極集中し、慢性的な人材不足を抱える最先端IoT企業等では、地方にサテライトオフィスを設け人材育成を図る動きが本地域でもみられる。

こうした地域若者の人材流出を防ぎ地域定着を促進するためには、全国的にみても最先端の人材育成システムを構築しつつ、優秀な人材を必要とする最先端IoT企業等を誘致し、誘致企業と地域企業が融合した最先端プロジェクトを創出し、若者に魅力ある仕事を創出する必要がある。

事業概要

地域の大学生に対し、中高生IoTキャンプの講師となれる最先端のIoT技術やコミュニケーション能力を学ぶ研修（20人×年2回）を実施する。当該研修は、大学と連携して単位認定も実施されるものとし、インターン支援等を通じて、地域IoTリーダー（3年間で100人以上）を育成する。

次に、大学生IoTリーダーから中高生が先端IoT技術を学ぶ中高生IoTキャンプ（50人×年3回）を実施する。また、地域の魅力あるしごとを知ってもらう「地域しごとと魅力発見ツアー」を実施する。受講した中高生をフォローして、次の世代へつなぐIoTリーダーに成長すること促進することにより、IoT人材の地域内育成エコシステムを構築する。

加えて、最先端IoT企業等に対する効果的なシティブロモーションを実施し、サテライトオフィスを誘致（3年間で5社以上）する。誘致企業と地域企業と融合を図る嘉飯桂IoTラボを立ち上げ、ものづくり・医療・農業などの地域スマートプロジェクトを実施（3年間で5件以上）する。

なお、地域IoTリーダーが一定程度育成され、本事業が定着した段階（4年後以降）においては、嘉飯桂IoTラボに参加している企業等による企業版ふるさと納税や参加費のみで運営費を賄える自立化体制を確立する。

事業計画

《1年目（12月～3月）》

- ◆会場・プログラムの検討、広報の実施
- ◆地域IoTリーダー養成研修（20人×1回）
- ◆中高生IoTキャンプ & 地域しごとと魅力発見ツアー（50人×2回）
- ◆最先端IoT企業のニーズ把握、プロモーション策の検討
- ◆IoT推進ラボの立上げ準備・国認定取得

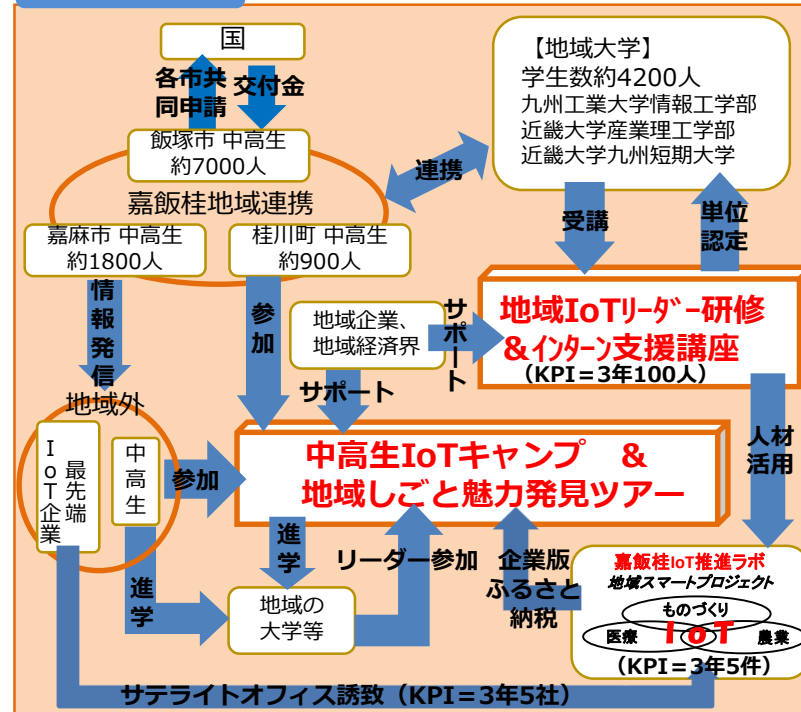
《2～3年目》

- ◆地域IoTリーダー養成研修（20人×2回）
- ◆地域IoTリーダー インターン支援講座（20人×1回）
- ◆中高生IoTキャンプ & 地域しごとと魅力発見ツアー（50人×3回）
- ◆最先端IoT企業へのプロモーション及び誘致施策の実施
- ◆IoT推進ラボによる地域スマートプロジェクト創出・推進

《4年目以降》

- ◆企業版ふるさと納税・参加費のみで自立的運営

スキーム図



【地方創生推進交付金 隘路打開タイプ（事業期間3年）及び企業版ふるさと納税】

中央休憩所及びCSシアター棟改修工事について

1. 中央休憩所改修工事

- ①工事概要 内装、システム工事等
- ②設置装置 A T M 1台
 現金簡易チャージ機 2台
 投票用端末（キャッシュレス） 5台
- ③工事予定期間 平成29年2月上旬から平成29年3月上旬

※工事内容等変更になる場合がある。費用については日本トーター負担。

2. CSシアター棟改修工事

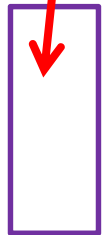
- ①工事概要 内装、外装、空調機器取替、システム工事等
- ②工事予定期間 平成29年3月上旬から平成29年6月下旬

※工事内容等変更になる場合がある。費用については日本トーター負担。

第7駐車場へ



警察車両専用



車椅子専用駐車場
(7台)

一般車両 (32台)

身障者専用駐車場
(9台)



第6駐車場へ

バスターミナル

トイレ

トーター事務局棟
コー 総合

中央休憩所棟

キッズ
従業員控

北トイレ

入場門
新規スロープ



競走会守衛門

防風カーテン

ステージ

湯

CS
シアター棟
北食堂

北門

コ
ミ

- ☆入場ゲート
- ・階段ではなく、スロープとする
- ・飯塚オートのランドマークとする
- ・待ち合わせスポット
- (入ったところにモニュメント設置)

既存テント

画

湯

売
売

新規折半屋根

新規エクステリア設置

第6投票所
第1投票所

渡り廊下

ロイヤル
スタンド棟

観覧スタンド

大型TV120吋



南西外観 パース

飯塚オートレース場 CSシアター棟改修工事



大型映像ホール パース

飯塚オートレース場 CSシアター棟改修工事



発券売り場 パース

飯塚オートレース場 CSシアター棟改修工事



食堂 パース

飯塚オートレース場 CSシアター棟改修工事



飲食ブース パース

飯塚オートレース場 CSシアター棟改修工事



飯塚市



嘉麻市



桂川町 ×



Life is Tech!®

地方の未来をキミが育てる!

地方創生人材育成プログラム つながるIoTリーダー育成研修
(平成28年度飯塚市・嘉麻市・桂川町 地方創生推進交付金事業)

大学生向け!

地元の未来を IT で切り開くリーダー創造プログラム!

飯塚市・嘉麻市・桂川町とライフイズテックが届ける、
本プログラムでは、

- ・あなた自身の技術力を高める「技術研修」
- ・子どもの可能性引き出すコミュニケーション術を学ぶ「ファシリテーション講座」
- ・中高生向け 1 day イベントでの「指導体験」

皆さんの将来に役立つスキルを約 1 ヶ月に渡って学ぶ研修プログラムを無料で提供します。
皆さんの力で最先端の IT 教育を届け、地域の未来を育てましょう!

1 「プログラミング」
を学ぶ

2 「ファシリテーション」
を学ぶ

3 地元の中学生・高校生
に教える

プログラミング
初心者も!
Welcome!

Leaders

by Life is Tech!

研修コース(いずれか1つのコースを選択いただき研修に参加します。)

▶iPhoneアプリ開発コース

プログラミング言語の「Swift」を学び、オリジナルのアプリを制作。

▶Unityゲームプログラミングコース

プロも使うゲーム開発エンジン「Unity」を利用し、オリジナルの2Dもしくは3Dゲームを制作。

▶Webデザインコース

「HTML」、「CSS」の2つの言語を利用し、オリジナルのwebサイトを制作。

説明&選考会 日程

- 1/19 (木) 19:00~21:30 @立岩公民館3階中研修室 (飯塚市新飯塚20-30)
1/20 (金) 19:00~21:30 @立岩公民館3階中研修室 (飯塚市新飯塚20-30)
1/21 (土) 13:00~15:30 @飯塚市役所4階入札室 (飯塚市新立岩5-5)

まずは説明会へ!!!!

<http://lit.sh/iizuka>

※当日は説明会と選考会の2部構成となっています。
(説明会後に選考会に進んで頂くかをご自身で判断出来ます)

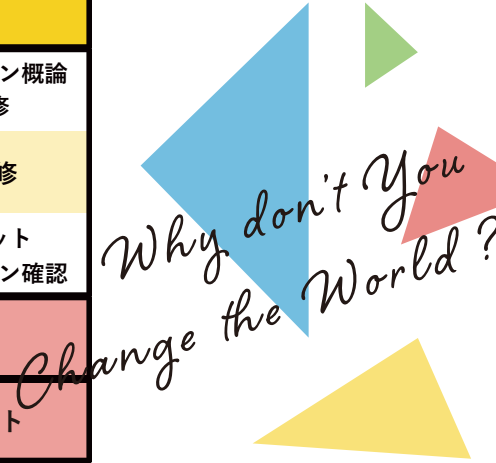




大学生向け 中高生を導くリーダー創造プログラム

◎研修スケジュール概要

	日程	AM	PM
研修	1/29(日)	オープニング&自己紹介	ファシリテーション概論 コース別研修
	2/5(日)	コース別研修	コース別研修
	2/12(日)	オリジナル作品発表	Event インプット ファシリテーション確認
中高生 1day 体験会	2/26(日)	先輩メンターと一緒に中高生を教える	
中高生 3days Camp	3/18(土)-3/20(月)	先輩メンターと一緒に中高生をサポート	



※研修日程に全日参加出来ることが、この取り組み参加への必要条件になります。
 ※研修と研修の間にも課題があります。
 ※上記スケジュールは変更になる場合がございます。
 ※研修中の交通費は自己負担ですが、研修は全て無料で受講できます。なお、研修終了後、1day メンターとして登録され、メンターとして仕事をした際に初めて、業務に対して報酬・交通費をお支払いいたします。

◎大学生向け中高生を導くリーダー創造プログラムで得られるもの

Skill Up

iPhone アプリ開発や、ゲーム制作、WEB 開発、デザインなどの技術力が UP

「教える」ということは、何よりも良いアウトプットの機会になるので、技術に対する理解が深まります。
 技術だけでなく、4-6 人の生徒を受け持つことでリーダーシップやチームビルディングの力を必要とされるため、「生徒を教えることによって自分自身が成長すること」を体感できます。プログラミング経験がない文系の学生でも、やる気さえあれば大丈夫。自身のスキル幅を広げ、新しい分野へ挑戦するチャンスです。

Social Contributions

日本全国で求められている地方創生人材

地方創生は、日本の各地域で様々な取り組みが行われています。人口減少に伴う地方経済の縮小は、国内市場の減少や雇用確保など大きな課題であり、地方創生を担う人材は求められています。本プログラムで得られる技術やスキルは、皆さんのふるさとを盛り上げていく上でも力を発揮します。本プログラムに参加して一緒に地元を盛り上げましょう！

<飯塚市・嘉麻市・桂川町よりメッセージ>

人口減少等の喫緊の課題を抱える地方では、将来にわたって地域の活力を維持していくため、それぞれの地域の特徴を踏まえ、個性豊かで魅力ある地域社会を創造していくことが必要です。飯塚市・嘉麻市・桂川町は、地域の中高生の子ども達が、最先端の IT 技術を地域の大学生リーダーから学ぶことで、地域の未来を支える想像力豊かな人材へと成長することを期待しています。

Life is Tech!。とは？

延べ 20,000 人以上が参加した国内最大級の中中学生・高校生を対象とした IT キャンプ/スクールを実施。春休みや夏休みを利用した短期集中型の「キャンプ」、毎週通学して学ぶ「スクール」、インターネットを通して学ぶ「オンライン」の 3 つのプログラムを運営。中中学生・高校生の「創造する力」と「つくる技術」の習得を目指す。参加者の約 8 割がパソコンやスマートフォンをほとんど触ったことがない初心者で、IT を楽しむ仕掛けを多数用意している。



【お問い合わせ】プログラム運営事務局（ライフイズテック株式会社内）

info@life-is-tech.com / 03-5439-9422 (月～土 10:00～17:00)

※12/31(土)～1/9(月・祝)は、年末年始のお休みを頂きます。1/10(火)10時より通常営業となります。

背景

嘉飯桂地域（飯塚市、嘉麻市、桂川町。以下同じ）において、地域の中学・高校に在籍する生徒が約1万人（H28年度学校基本調査）いるが、同地域の通勤通学流動状況では約5,800人の流出超過（H22年国勢調査）となっており、就職や進学する際にその多くが地域外へ流出している。

また、同地域には3大学（九州工業大学情報工学部、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学）が立地し、在籍する大学生（約4,200人）の8割以上が地域外から流入（本市調査）しているが、卒業・就職とともに9割以上が地域外へ流出している。

その要因として、中高生については、地方において最先端の教育を受ける機会が少なく、都会との教育格差が生じていること等が考えられる。大学生については、地域企業等と接する機会が少なく地域の魅力を知らずに卒業していくほか、地元志向があっても最先端IoT企業等への就職を優先し、地域外へ流出するケースもみられる。一方、首都圏や大都市に一極集中し、慢性的な人材不足を抱える最先端IoT企業等では、地方にサテライトオフィスを設け人材育成を図る動きが本地域でもみられる。

こうした地域若者の人材流出を防ぎ地域定着を促進するためには、全国的にみても最先端の人材育成システムを構築しつつ、優秀な人材を必要とする最先端IoT企業等を誘致し、誘致企業と地域企業が融合した最先端プロジェクトを創出し、若者に魅力ある仕事を創出する必要がある。

事業概要

地域の大学生に対し、中高生IoTキャンプの講師となれる最先端のIoT技術やコミュニケーション能力を学ぶ研修（20人×年2回）を実施する。当該研修は、大学と連携して単位認定も実施されるものとし、インターン支援等を通じて、地域IoTリーダー（3年間で100人以上）を育成する。

次に、大学生IoTリーダーから中高生が先端IoT技術を学ぶ中高生IoTキャンプ（50人×年3回）を実施する。また、地域の魅力あるしごとを知ってもらう「地域しごとと魅力発見ツアー」を実施する。受講した中高生をフォローして、次の世代へつなぐIoTリーダーに成長することを促進することにより、IoT人材の地域内育成エコシステムを構築する。

加えて、最先端IoT企業等に対する効果的なシティブロモーションを実施し、サテライトオフィスを誘致（3年間で5社以上）する。誘致企業と地域企業と融合を図る嘉飯桂IoTラボを立ち上げ、ものづくり・医療・農業などの地域スマートプロジェクトを実施（3年間で5件以上）する。

なお、地域IoTリーダーが一定程度育成され、本事業が定着した段階（4年後以降）においては、嘉飯桂IoTラボに参加している企業等による企業版ふるさと納税や参加費のみで運営費を賄える自立化体制を確立する。

事業計画

＜1年目（12月～3月）＞

- ◆会場・プログラムの検討、広報の実施
- ◆地域IoTリーダー養成研修（20人×1回）
- ◆中高生IoTキャンプ & 地域しごとと魅力発見ツアー（50人×2回）
- ◆最先端IoT企業のニーズ把握、プロモーション策の検討
- ◆IoT推進ラボの立上げ準備・国認定取得

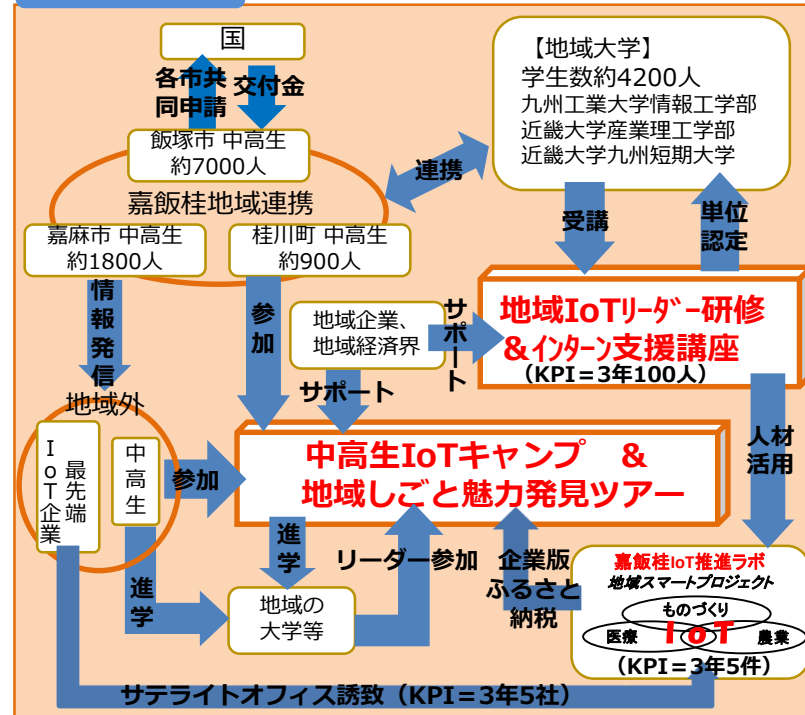
＜2～3年目＞

- ◆地域IoTリーダー養成研修（20人×2回）
- ◆地域IoTリーダー インターン支援講座（20人×1回）
- ◆中高生IoTキャンプ & 地域しごとと魅力発見ツアー（50人×3回）
- ◆最先端IoT企業へのプロモーション及び誘致施策の実施
- ◆IoT推進ラボによる地域スマートプロジェクト創出・推進

＜4年目以降＞

- ◆企業版ふるさと納税・参加費のみで自立的運営

スキーム図



嘉飯桂IoT推進ラボ

福岡県飯塚市・嘉麻市・桂川町

経済建設委員会資料
平成29年2月1日提出

事業の内容

事業目的・概要

- 福岡県中央部に位置する嘉飯桂地域（飯塚市、嘉麻市、桂川町）において、地域の理工系大学に在籍する豊富な人材を活かし、地方創生を牽引する地域IoTリーダーを育成する。
- 地域IT企業、ものづくり企業、医療機関、経済団体、大学、地方公共団体は、地域IoTリーダー育成に協力しつつ、優秀な人材を活かしたスマートプロジェクト（ものづくり、医療、農業等）を創出する。

重要業績評価指標（KPI）《30年度まで》

- 地域IoTリーダーを100人以上育成します。
- IoT企業サテライトオフィスを5社以上誘致します。
- 地域スマートプロジェクトを5件以上創出します。

今後の展開

- 地方創生推進交付金を活用し、平成30年度まで地域IoTリーダー育成事業及びスマートプロジェクトを実施し、早期事業化を目指すほか、企業版ふるさと納税等も活用しつつ自立化を図ります。

事務局

- 飯塚市・嘉麻市・桂川町

参加プレイヤー

- 地域のIT・ものづくり企業（福岡ソフトウェアセンター、ハインターナショナル、TRIART、タカハ機工、オプティム等）
- 九州工業大学情報工学部・大学院情報工学研究院、近畿大学産業理工学部・九州短期大学
- 麻生飯塚病院、済生会飯塚
- 飯塚研究開発機構、嘉飯桂産業振興業議会

事業イメージ

地域IoTリーダー育成→スマートプロジェクト創出

九州工業大学情報工学部・
大学院情報工学研究院
近畿大学産業理工学部

民間IoT教育事業者

理工系人材

運営・ノウハウ

地域IoTリーダー育成事業

- ✓ H28～30FY
地方創生推進
交付金を活用
- ✓ 31FY～企業
版ふるさと納税
等で自立化

人材活用

スマートものづくり

IT×ものづくりによる
迅速な新製品開発

スマート医療

医療や介護現場
ニーズに即した
IoT機器開発

スマート農業

ドローン等を活用した
農業の生産性向上

事務局（飯塚市・嘉麻市・桂川町）

- ✓ 事業企画、PR、案件発掘
- ✓ IoT企業サテライトオフィス誘致

工事請負変更契約報告書（都市建設部 住宅政策課）

経済建設委員会資料
平成29年2月1日提出

	事業名	工事名	請負業者名	変更契約金額	変更増減額	原契約金額	落札率	変更契約工期	原契約工期
1	造成工事	長楽寺団地公営住宅造成(1工区)工事	有限会社平成産業	59,668,920円 うち消費税 4,419,920円	379,080円 うち消費税 28,080円	59,289,840円 うち消費税 4,391,840円	85.19%	着手 平成28年6月16日 しゅん功 平成29年1月31日	着手 平成28年6月16日 しゅん功 平成29年1月1日
2	造成工事	長楽寺団地公営住宅造成(2工区)工事	株式会社伍栄建設	69,461,280円 うち消費税 5,145,280円	△414,720円 うち消費税 △30,720円	69,876,000円 うち消費税 5,176,000円	86.41%	着手 平成28年6月21日 しゅん功 平成29年1月31日	着手 平成28年6月21日 しゅん功 平成29年1月6日

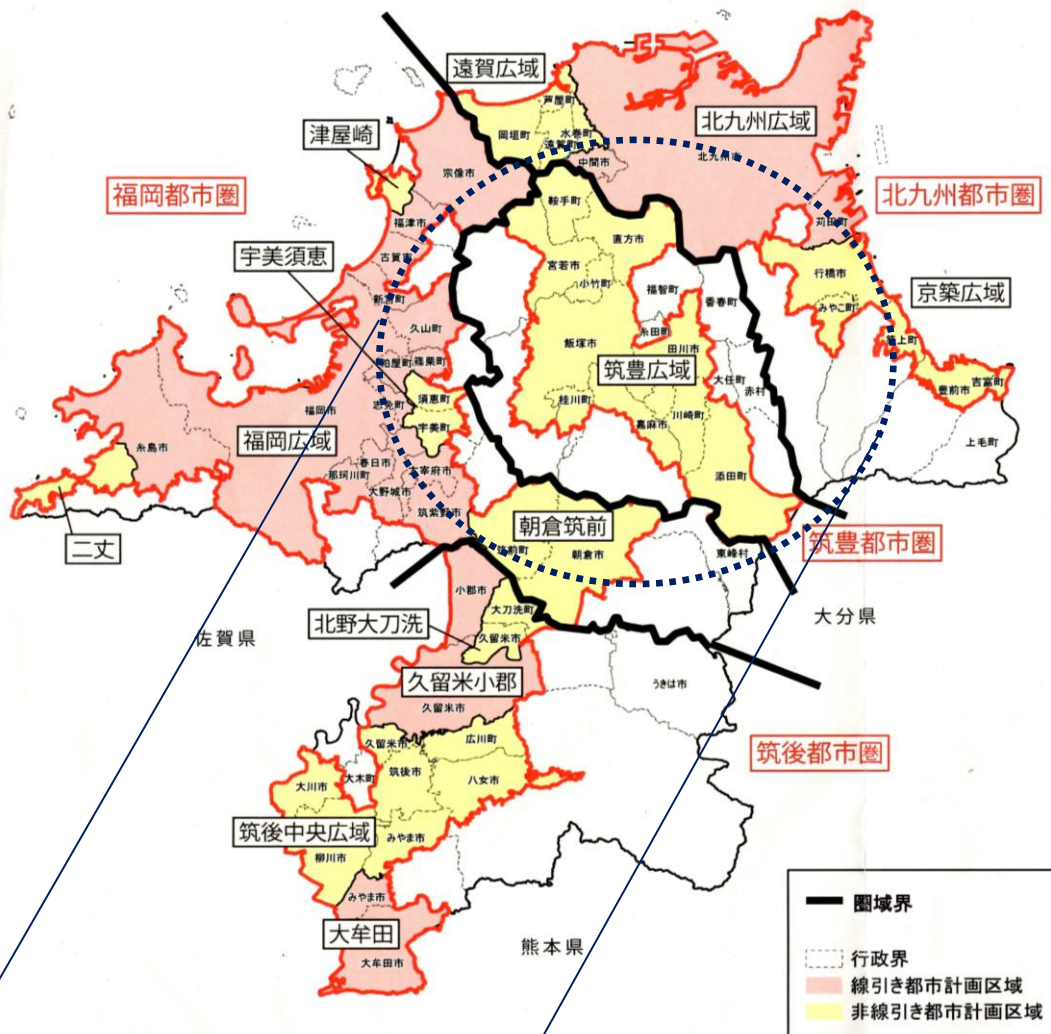
※主な変更理由

(1工区)平成29年度の建築工事で設置予定の污水管の内、本工事で復旧完了する歩道部約33mについて先行して布設することによる増工。その他数量の異動による請負金額の変更、および污水管布設増に伴う工期の延伸。

(2工区)地盤改良工の平板載荷試験結果より、所定の地盤支持力を確認できたため減工。既存墓石の移設撤去及び甕棺撤去を行うための協議に時間を要したため工期の延伸。

都市計画区域の変更

経済建設委員会資料
平成 29 年 2 月 1 日提出



(旧) 都市計画区域名
飯塚都市計画区域
直方都市計画区域
田川都市計画区域
宮田都市計画区域
山田都市計画区域
稲築都市計画区域
小竹都市計画区域
鞍手都市計画区域
桂川都市計画区域
添田都市計画区域
川崎都市計画区域

⇒

(新) 都市計画区域名
筑豊広域都市計画区域